

第35回口頭弁論 資料

2023年6月20日(火) 10:00 開廷

- 8:50~9:15 原告集合 (私たちで原告席の抽選)
9:15 一般参加者集合
9:15~9:30 裁判所による傍聴席抽選券の配布・〆切 (見込み)
9:30 裁判所が傍聴者抽選結果を発表 (見込み)
9:45 原告・弁護団・支援者で裁判所門前まで歩む
10:00 開廷
本日の法廷は、原告側・証人への尋問
証人は、芦田 譲さん (京都大学名誉教授、物理探査学会元会長)
町田 洋さん (東京都立大学名誉教授、火山学者)
12:15 頃~ 昼食休憩
13:15 頃~ 口頭弁論再開
16:30 頃~ 閉廷の見込み

報告集会は実施せず、超短時間の「しめくくり」を行います。
(裁判所門前までの行進に出発した場所にて)

証人尋問について

今回は、原告側の証人のため、最初に弁護団から質問 (主尋問という)。次に被告側弁護士から質問 (反対尋問という)、さらに再主尋問と再反対尋問があり、その後に裁判官から質問 (補充尋問) する場合があります。

今後の裁判(証人尋問)日程

最終ページに掲載しています

カラーで資料冊子を用意しました。宜しければ、印刷実費程度 (500 円程度) のカンパをお願いします。(裁判所内では受渡しできません。敷地外をお願いします。)

伊方原発運転差止訴訟原告団・伊方原発をとめる会

本日の原告側・証人

○ 芦田 讓 (あしだ・ゆずる) さん

【略歴】

物理探査の専門家であり、2000年代の初頭から、原発の安全性に直接影響する原発敷地周辺により正確な地下構造形態を把握するために三次元探査を行うべきだとしてきた。

1967年京都大学理学部地球物理学科卒業。1967年石油資源開発(株)入社。1980年物理探査学会賞(論文賞)。1986年東京大学工学博士。1996年京都大学教授。2007年京都大学名誉教授。2002～2003年物理探査学会会長。2000～2010年経済産業省国内石油・天然ガス基礎調査実施委員会委員長。日本学術会議第19期会員。2006～2015年特定非営利活動法人環境・資源・農林業ネットワーク理事長。



【著書】

「建設・防災技術者のための物理探査 P O D版」 森北出版、2020/01/01 発行
「地圏環境情報学：地下を診る最先端技術」市民環境工学第7巻 山海堂 2005.5
など

○ 町田 洋 (まちだ・ひろし) さん

【略歴】



地理学者、火山学者。1959年東京大学大学院数物系研究科修了。理学博士。東京都立大学名誉教授。過去の火山噴火が自然や人間に与えた影響を主に研究している。

日本の火山灰編年学(テフロクロノロジー)の第一人者。山地における大規模崩壊の研究の後、関東ローム層の研究や始良 Tn 火山灰、鬼界アカホヤ火山灰といった広域テフラを調査発見し、広域テフラの編年を行った。相模原市立博物館に長年の研究で収集したテフラ標本約 6,000 点が寄贈されて

いる。

日本第四紀学会会長、国際第四紀学連合コミッションである火山・テフロクロノロジー委員会委員長、日本学術会議会員、同地質科学総合研究連絡委員会委員長、日本ジオパーク委員会副委員長などを歴任。

【著書】

『火山灰は語る - 火山と平野の自然史』 蒼樹書房、1977年
『火山灰アトラス - 日本列島とその周辺』 東京大学出版会、1992年
『文明と環境 3 火山噴火と環境・文明』 思文閣出版、1994年、ISBN 4-7842-0844-5。
『写真でみる火山の自然史』 東京大学出版会、1998年
など

今後の裁判（証人尋問）の予定

- ◆ 第36回口頭弁論
8月22日（火）10：00開廷（16:30頃 閉廷の見込み）
被告側 松崎 伸一 氏（四国電力土木建築部長） 地震動
" 森 伸一郎 氏（愛媛大学教授、地震工学）
- ◆ 第37回口頭弁論 10月10日（火）
原告側 巽 好幸 氏（神戸大学名誉教授、地球科学、マグマ学）
被告側 奥村 晃史 氏（広島大学特任教授、地震地質学）
- ◆ 第38回口頭弁論 11月21日（火）
被告側 中川 俊一 氏（四国電力社員） 安全対策
- ◆ 第39回口頭弁論 12月12日（火）を予定
原告側 野津 厚 氏
（国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所
港湾空港技術研究所）

次のお二人を原告側証人として予定しています。

岡村 眞 氏（高知大学名誉教授、地震地質学）—書面尋問
佐藤 暁 氏（原子力情報コンサルタント）